

## 平成24年度第3回京田辺市中学校昼食等検討委員会 会議録

開催日時 平成25年2月21日(木) 午後2時から午後3時30分

開催場所 京田辺市役所 305会議室

出席者 京田辺市中学校昼食等検討委員会  
教育部長、京田辺市小・中学校長会代表(大住中学校)  
京田辺市小・中学校教頭会代表(培良中学校)  
京田辺市PTA連絡協議会代表(田辺中学校)  
市立中学校PTA代表(大住中学校)  
市立中学校教諭代表(田辺中学校)  
市立中学校教諭代表(大住中学校・培良中学校)  
京田辺市小学校栄養教諭代表(田辺東小学校)  
助言者

欠席 市立中学校PTA代表(培良中学校)

事務局	<p>皆さん、こんにちは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>前回の宿題としまして、給食の実施形態についてももう少し検討を深めるための事例、あるいはコストについての資料を用意させていただきましたので、本日もよろしくお願ひします。</p> <p>進行は委員長にお願いいたします。</p>
委員長	<p>皆さん、ご苦労様です。今年、3回目の中学校昼食検討委員会ですが、年度末も迫ってきましたので、徐々にまとめていきたいと思ひますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、「これまでの経過及び会議のまとめ」について事務局の説明を求めます。</p>
事務局	<p>それでは資料の1～2ページに、これまでの検討委員会で議論のあつた事柄などをまとめさせていただいてありますので、説明させていただきます。</p> <p>&lt;資料の説明&gt; 京田辺市中学校昼食等検討委員会検討結果報告書(骨子)案読み上げ。</p>

	<p>以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>昨年のアンケートでは、生徒は家庭の弁当がおいしい、自分の好きな物が食べられる、味や分量が調整してもらえる、弁当を通じて親子の会話ができる、昼の時間になるとすぐに食べられる、等があげられていました。保護者からは、食事の量等は個人差があるので家庭弁当が良い、生徒と同じように親子とコミュニケーションがはかれる等の意見がありました。生徒の思いや親子のふれあい、さらには味覚等について家庭弁当の意義を見いだす意見がたくさん出ていたのではないかと思います。</p> <p>中学生は自分の体のことを考えて食材や食べ物を自ら選ぶことの力を備えることも必要です。生徒たち自身が献立を考えたり、自分で弁当を作ったりすることが、食育や自立という面から意義がある事だと思います。中学校での望ましい昼食については、生徒の64%近くが家庭弁当の方が良いと回答していました。また家庭弁当を持参できない場合に、前もって注文した弁当を食べられる方法がよいと回答した生徒が18.7%でした。その一方、保護者の67%が小学校のような給食が望ましいと回答しています。</p> <p>これまでの検討の中では、家庭弁当の意義はあるものの、一方で栄養のバランスや親の負担、夏場の品質管理などの課題も指摘されていたところです。</p> <p>一方、給食の利点は栄養のバランスが良い、働く保護者の負担が減る、作りたての物がそのまま提供できる、などの事務局報告がありました。このように栄養面、安全・安心面、負担軽減等、学校給食に対する意義も見いだすことができたのではないのでしょうか。</p> <p>しかし、学校給食の実施となると現実的な課題として予算の問題、昼食時間の問題、給食費の徴収問題、指導面での問題、食べ残し・ゴミの問題、食物アレルギーの問題等があり、家庭弁当、学校給食のどちらもメリット・デメリットがあるように思います。議会で請願が趣旨採択されましたが、その中で早急にと時間的な要請と、弁当を持って来られない生徒への対応を求める趣旨が書かれていました。</p> <p>今までの会議のまとめとして事務局から報告がありました、</p>

	<p>何か質問ございませんか。</p> <p>なければ前回に続きまして、同志社大学の柳田先生からご助言がありましたらよろしく申し上げます。</p>
助言者	<p>ただ今、これまでの審議報告がありました。それぞれにメリット・デメリットがありまして、その通りだと思いました。問題は今の京田辺市の生徒の実態というか、もちろん先生方の教育・指導負担、または市の予算などを勘案する中で、この委員会として最終的にどこに落ち着かせるのかと言うところだと思います。今のところ特に強い意見とか疑問はございません。</p>
委員長	<p>続きましてコスト面でのメリット・デメリットについて、事務局から説明を求めます。</p>
事務局	<p>それでは、前回配布しました実施方式に対する比較表のコスト面での比較結果について、説明させていただきます。資料3ページをご覧ください。前回、4つの方式を比較していましたが、京田辺市では親子方式で中学校の給食を賄える設備や場所はなく、親子方式にする場合は小学校の給食室を全て建て直す必要があるため、今回の比較では、親子方式を省かせていただいています。自校式の初期投資は、食数が近い事例である茨城県古河市の小学校を参考に試算したもので、およそ初期投資に3億5000万円かかり、維持費は年間約7千万円かかるという試算になっております。</p> <p>給食センター方式につきましては、同じく当市の3中学を合わせた食数に近く、稼働した年数が比較的新しい現在の衛生基準に合った施設である、香川県丸亀市の給食センターを参考にしています。その結果、初期費用として約4億3000万円、年間の維持費が、年間5800万円程かかる試算となりました。</p> <p>続きましてデリバリー方式は、京都市と宇治市の先進2市の視察を行い、京田辺市の現状から宇治市の事例を参考に試算しました。こちらは全員喫食の給食ではなく、弁当を持って来られないケースを対象とした昼食を補うシステムです。初期投資は給食の受け入れ施設と配膳室等の整備、給食予約システムの整備で、このシステムは、給食費の滞納等がないよう事前支払いに対応しており、当日の予約に対応したシステムになっています。それらを合わせて480万円程の初期投資となります。年間の維持費につきましては、システムのメンテナンス委託料と配膳業務をシルバー人材センターに委託する事を想定しまして、年間70万円程度</p>

	<p>になります。</p> <p>なお、前回の比較では単独調理場方式の初期投資が給食センター方式よりも、学校の数だけ建設しなければならないためコストがかかると想定していましたが、今回の試算では逆転した結果になりました。</p> <p>以上でございます。</p>
委員長	<p>今までのメリット・デメリット、そしてコスト面に関して何かご質問等ございませんか。</p>
委員長	<p>このデリバリー方式で給食の予約システムの整備というのは、システムの構築等、全て含んでいるのですか。</p>
事務局	<p>利用者が携帯電話やパソコン等で予約することになっており、弁当業者や教育委員会、学校にシステムを整備する費用を含んだ整備費となっております。</p>
委員長	<p>何校でも同じですか。</p>
事務局	<p>整備する学校が増えると、整備費も若干増えると思いますが、ソフトウェアの整備費用が主なので、大きくは変わらないと思われれます。</p>
助言者	<p>給食センターのところの④は、土地取得費は金額が記入されていませんが、これはさらにかかりますか。</p>
事務局	<p>はい。今回の試算では、用地費は含んでおりません。</p>
助言者	<p>どのくらいの土地が必要かわかりますか。</p>
事務局	<p>他市の設備を参考にしますと、平地で約3000平米ほどの面積が必要となっております。</p>
委員長	<p>受け入れ設備とは、どのようなものですか。</p>
事務局	<p>配送されてくる食事を受け入れるための施設で、空き教室に仕切りを設け、空調と保管棚を整備する程度で、およそ100万円と想定しております。</p>
委員長	<p>続きまして先進地視察の報告をお願いします。</p>
事務局	<p>選択制デリバリー方式の先進地である宇治市と京都市に、視察に行ってきましたので報告します。</p> <p>利用方法について宇治市では、まず1ヶ月分の献立表を事前に配布し、利用する場合は、利用者が申込みシステムに事前登録しておきます。その後、クレジットカードやコンビニエンスストアで、事前に弁当代を振り込み、利用したい日に注文するという流れになっています。当日の午前8時までにインターネットもしくは電話などで注文し、業者の照合後、お昼に食べられるように弁</p>

当が配達されます。

京都市では、同じく一月前に献立表を配布しますが、こちらは1ヶ月単位での申込みで、前月の初旬までに学校に利用申込みをします。1ヶ月分の給食費を業者に振り込んでおくと、業者から配膳室に弁当が届けられます。

献立について、宇治市では一般の弁当を基本に、栄養士が献立を確認し、必要に応じて改善を求めたものを、一般の製造ラインを使って製造しているため、給食専用のメニューとはなっていません。京都市では、製造施設が全て給食専用として稼働しており、そのため市の栄養士が作成した給食用献立の提供が行われています。

委託業者については、宇治市では民間調理場を持つ業者に委託し、弁当を製造・配達してもらっているとの事です。衛生基準については、厚生労働省や業者基準によって業務を行っており、法的衛生基準は満たしております。食数は家庭弁当を持って来られない子や、当日に弁当を作れない場合などを補うことを想定したものです。京都市では、給食専用の製造施設を持つ業者に委託されており、そのために、指名入札の前に安心・安全な給食を提供できる施設についての事前チェックがなされ、事前審査型の指名入札で、契約は一年ごとに行っているとのことです。事前審査の際に調理場見学等も行うなど厳しい審査のため、参加する業者のハードルは高いものとなっています。

給食費については、宇治市は全て実費で、1食350円での提供となっています。京都市は給食としての位置づけのため、保護者が材料費だけを支払い、調理業務や配送の費用等は委託料として市から支出しています。生活保護や就学支援世帯については、補助があると聞いています。

昼食を保管、配膳する受け入れ施設について、宇治市では空き教室を利用し、配膳用の棚と空調を設置した簡易な施設のため、およそ100万円で施設の整備ができたとのことです。京都市については、全校生徒が注文しても対応できる施設として整備されており、配膳場所には冷温蔵庫を整備し、委託業者から配膳担当者を配置してもらするなど、給食室に準ずる施設を整備されていて、整備費用は1校につき約2000万円かかっていると聞いています。

食育については両市とも、献立だよりや食育だよりの発行等に

	止まっており、給食が食育に結びついているのではなく、家庭科や保健体育等の授業で行っていると聞いています。以上です。
委員長	宇治市と京都市の根本的に違うところはどこですか。生徒の申込み状況はどうですか。
事務局	申込み状況は、宇治市の初年度が約10%、京都市は約30%と聞いています。 違いとしましては、献立が給食専用である京都市に対して、宇治市は一般の製造ラインを利用した一般の献立に、市の栄養士が必要に応じて改善を加えた献立という違いがあります。 ただ京都市の施設については、給食センターを民間業者が用意しているような状況であり、京田辺市で京都市の方法を用いるのは業者の問題から難しいと感じました。以上です。
委員長	施設整備には市の負担がないわけですね。
事務局	初期投資は、受入れ側の配膳室の整備くらいです。
委員長	では、今までの中で疑問な点とかございますか。
助言者	デリバリー方式だと、ある意味給食センターを民間が持っているの、非常に市としては助かると思います。設備が老朽化しても市としては負担がかからないので、非常に利口ですが、京田辺市がデリバリー方式を採用しようとした場合、現実的に提供できる業者があるのかどうかを押さえておかないと、とんでもないことになるので、その辺の目処も考えておく必要があるのかなと思います。市内中学校の食数の10%として200食なら一社で提供できるとは思いますが、需要が増えた時にお手上げにならないよう、目処を立てておかなければならないと思いますが、その辺はどうなんですか。
事務局	先進地で弁当を提供している業者に直接会って尋ねたところ、先進地と同様の方法でなら、京田辺市での供給も可能だと回答いただきました。栄養士の注文により一部の献立変更についても対応できるとの事でした。支払い方法についても、システム開発業者に尋ねたところ、当然費用はかかりますが、対応できるとの返事でした。発注上の問題はありますが、物理的には可能との確認をしています。 弁当の量については、同額ではありますが少なめの分量と2種類の用意ができるとの事です。
助言者	最低限1社は確保できているという事ですね。現在、宇治市ではある程度栄養士の指導を業者が受け入れて調理されているよう

	<p>なので、京田辺市でもそれは可能かなということですね。それだけ市が栄養バランスを考えて管理しているという事で、食育という観点では、例えばコンビニに売っている弁当をそのまま買ってくるのでは全く意味がないので、市として関わった上で提供されるのであれば、市民の方や保護者の方にはそれなりに納得してもらえenと思います。そのシステムが導入できるのであれば、まずはデリバリー方式を実施することで、弁当を持参できない子どものケアはできますね。</p>
副委員長	<p>10%程度の利用率ということですが、本校ではもっと低いのではないかなという感じがします。実態としては、アンケートで96%の家庭が弁当を持たせており、本校でいうと残り4%で30人程が弁当を持って来られない生徒となるわけですが、逆に食数が少ない場合であっても、そのような供給はしていただけるのでしょうか。</p>
事務局	<p>1校あたり10食程度でも対応できると、先ほどの業者には確認しております。</p> <p>配送は、事業所等と合わせて配達するとの事ですので、食数が少なくても対応できるとの事です。</p>
助言者	<p>もしデリバリー方式を採用し、それが栄養士の関わった献立となるならば、給食の導入を希望する親が約7割おられるので、例えば時間がなく冷凍食品ばかりで子どもにかわいそうだと思いながら作っている保護者などは、むしろこの方法を選択されると思います。また、京都市で約3割が利用されているということは、やはり安心感に親が頼るのではないかと思います。しかし多くなった場合の対応も同時に考えておく必要がありますね。</p>
事務局	<p>受け入れ施設の規模については、今より大きいものを想定しなければいけないということはあるかもしれません。</p>
委員長	<p>栄養士の立場からご意見はありませんか。</p>
委員	<p>デリバリー方式の場合、衛生面で保管には空調だけで十分なのかどうか気になりました。</p>
事務局	<p>衛生面については、アンケートで心配と回答した保護者もあつたので、設備面はもう少し検討が必要と思います。</p>
副委員長	<p>給食の場合は校長が検食していますが、デリバリーでは多分そのようなことは行われていないような気がするんですけども、もし弁当に問題があった場合はどうなるのでしょうか。</p>
事務局	<p>宇治市の実施校では校長先生が毎日注文されておりますが、給</p>

	食のような検食はありません。
委員長	給食の方式についてPTAの方、何かご意見はございませんか。
委員	まずはデリバリー方式が良いと思いました。本当に作れない時に利用したいと思いました。支払い方法などの周知が必要と思いました。
事務局	現金払いの即日反映というのは困難ですが、事前に給食費の倍数の金額を入金されていますと、いつ申し込んでも金額分は使えるようになっていきます。そのため学校での集金はありませんが、納品時の確認はされていました。
委員長	他に何かご意見等ございませんか。
委員	説明を聞いていますと、どの方式もメリット・デメリットがあると感じています。個人的には、栄養面でもまた家庭での絆・親子のコミュニケーションなどを考えても家庭弁当が一番良いと考えますが、現実的にいろんな理由で家庭弁当を持って来られないお子さんがいるのも事実ですので、改革が必要なのかなと感じております。そこで先ほどありましたデリバリー方式が、京田辺市が取り組むのは、コスト面でも一番良いのかなと思いました。まず試行的にデリバリー方式で始め、改善を加えていくのが最もより方法ではないかと思いました。以上です。
委員長	学校の立場からはどうですか。
委員	<p>生徒の立場で言うと、デリバリー方式が一番負担の少ないように思います。ただデリバリー方式が、市議会の請願趣旨を活かしているのかという点は、少し疑問だと思います。大住中学校は、生徒指導上の課題が少ないというイメージをずっと持たれている市民の方も多いですが、ずいぶん昔とは変わっています。家庭的な原因で弁当を持参できない子の家庭が、代金の先払いをして弁当を注文するの心配です。</p> <p>でも、現実的には教職員の負担や市の財政的な負担も考慮し、市民の意見も参考にしており、デリバリー方式が一番妥当だと思いますが、給食というのは味や栄養のバランスではなく、今日も食べられる安心ということが、私は一番給食のメリットだと思いますので、今後、子供たちとか家庭の様子が大きく変化するのであれば、大変ではありますが子どものことを考えると、改めて今後時間をかけてでも、給食の実施について考えなければならぬと思います。私が20何年間教員をしている中で、給食にはそういう思いがありますが、今の段階では全体的にはこれしか</p>

	<p>いだろうと思っています。</p>
委員長	<p>心配せず、みんな一斉に食べるという給食が理想ということですね。</p> <p>他にご意見はありませんか。</p>
委員	<p>もう皆さん言われていますが、本当に実現するならばデリバリー方式しかないかなと思います。いろんな家庭環境があり、身体が悪い保護者や、子どもの多い家庭は弁当を注文するにも金額がかさむでしょうし、いろんなことを考えると本当に前払いできるのかなとかという不安が私にもあります。以前も払えない家庭も見てきている中で、厳しいとは思いますが、家庭弁当を作ってもらえない時は、デリバリー弁当を利用できるといった選択肢を広げるというのは、保護者にとっても良いのかなと思います。</p> <p>デリバリー方式が導入されればアレルギーに対しては、自己責任での選択になるということですかね。</p>
事務局	<p>献立は一ヶ月分の配布となり、それを見て判断していただくこととなりますが、先ほど説明させていただいたシステムであれば、注文は一日単位で選択できますし、家庭弁当とデリバリー弁当の二択ということは考えていませんが、パンやおにぎりだけよりも栄養的に考えられた食事なので、積極的に利用していただきたいと思います。</p>
委員	<p>家庭科の授業で食育も行っていますが、弁当づくりの授業をした際、いろんなことを学ぶ中でやっぱりおうちのご飯はおいしいと思ったり、お弁当箱に詰めるだけでも大変とか、後片付けも大変とか、いろんなことを思って感じたみたいです。食育という観点で見ると、給食を実施したから食育ができているというのではなく、まだまだしなくてはいけないことや、子供たちが感じたり保護者も考えてもらわなくていけないところとかたくさんあるのかなと思いますので、食の大切さについていろんな面でみんなで考えていかなくてはいけないと思います。</p>
事務局	<p>食育については、給食を提供すれば食育ができたというようなことではないので、授業などで改めて教える必要があると、完全給食実施市町村でも課題に感じておられるところです。前回柳田先生のお話にもありました、弁当を自分で作る事などは食育として大切なことではないかと思います。</p>
委員	<p>お弁当が作れず弁当を買うように言うと、子どもがコンビニ弁当は嫌と言うので、おばあさんに作ってもらったり、子どもがお</p>

	<p>かずをお弁当箱につめたりしていますが、入れる経験がなかったので失敗しながら勉強しているようですが、家庭弁当に変わるものができるなら、早くやってほしいです。</p>
委員長	<p>色々意見がありますが、デリバリー弁当で食育がカバーできるものではないし、親が子どもに弁当の意義を伝える事が一番理想的ですが、なかなかできない事情もありますし、完全給食でみんな同じ給食を食べると言うことも意義あることなんですけども、現実的にはなかなか困難な面があります。そうすると今PTAの方から意見をいただきましたように、現段階の委員会としてはデリバリーによる選択弁当方式の実施が結論かと思いますが、ご意見ございませんか。</p>
副委員長	<p>そのことについての反論ではありませんが、便利になると人間関係が希薄になるということがあると思います。私も20年間城陽市にいまして、そこでは完全給食でしたが、やっぱり給食であってもデリバリー方式であっても、苦勞しながら家庭でお弁当を作る事による親子の会話が途切れてしまうことが心配されます。そういう意味でデリバリー方式があればそちらに流れ、親は子どもの食というものに関心というか、そういうものが薄れてしまう事も考えられます。そういうことから今ある家庭弁当の意義を改めて考えていく必要があるだろうと思いますが、今の流れでは、デリバリー方式とかそういうような方法でやっていくという形でしかないのかなと思います。</p>
委員長	<p>デリバリーの留意点について何かあればお願いします。</p>
助言者	<p>先ほどの意見にもありましたが、親御さんがお弁当を作り、それで親子の会話が持てるとの意見がありましたが、私は本来自分が作って初めて食育が成り立つと思います。ですから、理想を言えば授業の中で子ども自らが調理して、それで初めて食の大切さやおいしく調理できる方法を学びとり、普段料理を作ってくれている親に対しても感謝の気持ちがわいてくるのだと思います。それと今は、多くの子どもから高齢者の食生活が乱れている時代なので、小学校だけではなかなかうまく食育が進められていないのも事実だと思います。さらに中学校でも、もっときちっと食育をやらないといけないと思います。しかし、色んな諸事情により理想どおりにはいかない中で、私も本委員会の中ではデリバリーによる選択弁当方式が、早急に対応できる最善策だと思います。</p> <p>今後、例えば小学校設備の老朽化などで、大規模な修繕や建て</p>

	<p>替えが必要となったタイミングで、中学校での完全給食導入についても、改めて全体について考えていかなければならないと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>とりあえずデリバリー方式というような方向で考えてみたいと思います。事務局からなにかありますか。</p>
事務局	<p>どうもありがとうございました。本委員会ではデリバリー方式を主に考えていくとまとめていただいたと思います。お話しがありましたように、議会からの請願の趣旨に答えられたことになっているのかということがあり、長期的な目標を持つことも考えながら、食育の取り組みなどの背景も盛り込みながら、今日までの議論を元に今できる事を一つの物にまとめていきたいと考えております。冒頭に説明させていただきました骨子案に今日の議論を付け加えまして、報告書の草案を次回までに作りたいと考えておりますので、3月中にもう一度お集まりしていただきまして、報告書の内容についてご協議いただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
委員長	<p>他に何かご意見ございませんか。</p> <p>それでは今日は長時間ありがとうございました。</p>